

「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里小学校】

平成31年4月18日（木）に、小学校第6学年全児童，中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語」，「算数」，「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

（1）教科に関する調査 【下記（ア）と（イ）を一体的問う】

- （ア）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- （イ）知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

* 出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

（2）児童に対する質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査

* 調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/19chousa/19chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

（1）教科の正答率について（※ 全国公立小学校の平均正答率（以下全国平均）との比較）

国語	学習指導要領に示されている3領域1事項（「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，「読むこと」，〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕）に基づいて，その全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
算数	学習指導要領第2章第3節算数における，「数と計算」，「量と測定」，「図形」，「数量関係」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	B

☆ 全国平均正答率との比較について

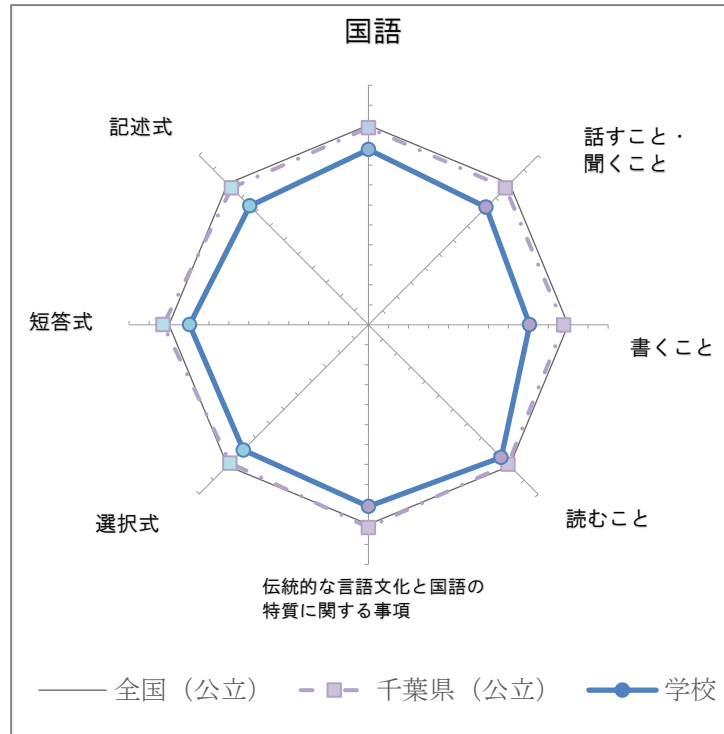
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



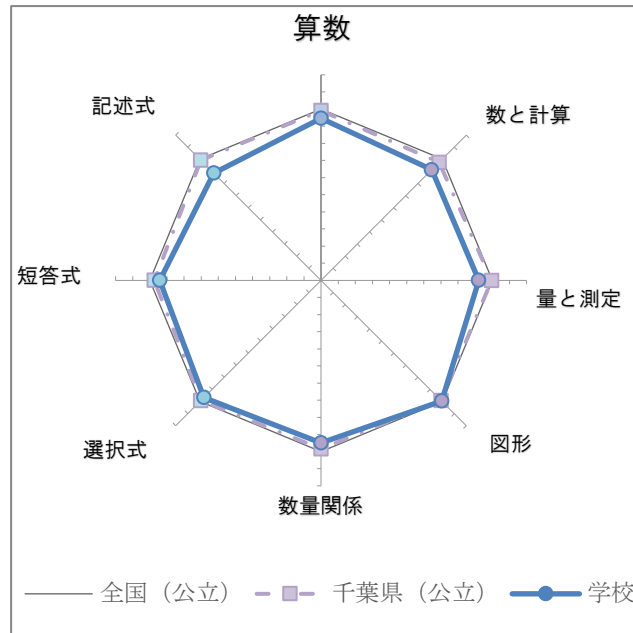
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率が下回っています。
- 漢字を書く問題では、5年生に学習した漢字は書けていましたが、4年生で学習した「対象」・「関心」が書けていませんでした。前の学年で学習した漢字の復習及び習熟が不十分でした。
- 文の中で漢字を正しく使うことについて課題がありました。
- 「話すこと・聞くこと」の領域の正答率が低かったです。2つの資料を比較して、大切なことを選びながら読み取り、自分の言葉に表す力が不足しています。
- 「書くこと」の領域の正答率が低かったです。文章を読み取る力、大切な言葉を選ぶ力、ふさわしい表現で書く力など、書くことを苦手としている児童が多く見られました。

【改善方策等】

- 漢字の読み書きについては、繰り返し練習して身に付ける必要があります。基礎的な問題を繰り返し解くドリル学習を、さらに充実させていきます。また、小テストを実施したり、前学年の漢字検定である「とみの国検定」の合格を目標にしたりして、児童の意欲を継続させていくように努めていきます。
- 「話すこと・聞くこと」については、目的に応じて話し合ったり、話し手の意図を理解したりする指導を継続させていきます。
- 全体的に正答率が低い原因の一つとして、読む力が不足していることが考えられます。文章を漠然と読むのではなく「詳細を読み取る」「素早く読み取る」等、児童一人一人が課題意識を持ちながら読む活動を取り入れ、読解力の向上を図る指導を心がけていきます。
- 文章を読み取り、条件に合わせて文章を書く学習を取り入れていきます。

算 数



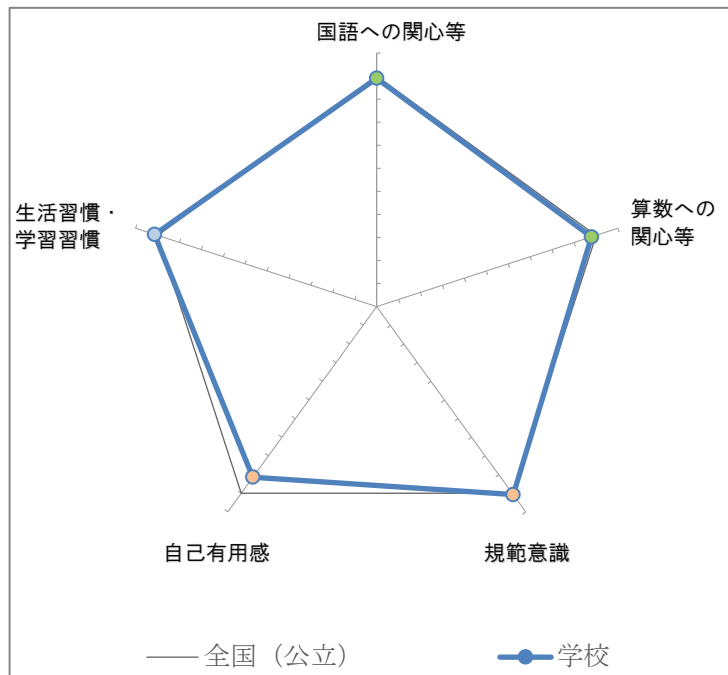
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率が下回っているものの、問題によっては、ほぼ同じか、上回っているものもありました。千葉県の平均と比較すると、図形の分野で正答率がやや上回っています。
- グラフからわかったことを選び、その理由を文章で書く問題についての正答率は、県・全国平均よりも高かったです。しかし、52%とほぼ半数の児童しか正答できていませんでした。
- 2つの台形を組み合わせてできる図形を見分ける問題についての正答率は、県・全国平均よりも高かったです。ただし、正答は3つあるのですが、2つしか選べていない児童が多く見られました。
- 言葉の式を書く問題で、わられる数とわる数の意味の理解が不十分のため、文章で答えを書くことができず、正答率が全国平均を下回っていました。数量の関係を正しく捉え、助詞を適切に使って表現することを徹底していきます。
- 立式に必要な数字が入っている問題では、文章の理解が不十分で、必要な数字を使って立式している児童が多く見られました。
- 示された情報や算数の性質をもとに、記述で解答する問題の正答率が、全国平均を下回っていました。

【改善方策等】

- 算数的用語を理解し、それをを用いて自分の考えを分かりやすく表現する活動を充実させていきます。
- 式の意味を正しく理解することに課題がありました。一般的な、「問題文」→「立式」→「答え」という流れにとどまらず、式から問題文を作ったり、それらを児童相互で解いたりするなど、考えを深める学習を取り入れていきます。
- 記述の問題全般に課題がありました。日頃の授業において、どのような筋道で解いたのかを文章で表現したり、それらを互いに検討したりする活動を充実させる必要があります。
- 問われていることが何かを適切に判断するためには、問題文を読む力が求められます。国語と同様、文章を読んで要点を正しく読み取る指導を心がけていきます。3・4年生の要点を捉える学習や要約の指導の徹底を行っていきます。

(3) 児童質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

- 自己有用感の質問項目の中で、「自分にはよいところがあるか」で「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は、全国平均をやや上回っていました。また、「学校に行くのは楽しい」「学校のきまりを守っている」と回答した児童の割合も、全国平均を上回っています。このことから、自己肯定感が高い児童が多いことがわかります。また、自己肯定感の高い児童は、国語の正答率が高い傾向がありました。
- 地域社会などでボランティア活動に参加している児童の割合は、全国平均に比べて低い傾向にあります。学校と地域が連携して積極的な参加の呼びかけを行っていきます。

3 まとめ

全体的に学力を向上させていくことが求められます。特に国語は、全体的な学力の向上が課題です。自分の考えを話したり書いたりするときには、うまく伝わるように理由を示したり、目的に応じて必要な語や文を見つけたりする学習が身に付いていない児童が多いことが質問紙からわかります。そのため、学校においては、基礎的・基本的な学習を引き続き充実させるとともに、理由をはっきりさせて話したり、目的をもたせて自分の考えを書いたりするという学習方法を取り入れ、指導方法の工夫・改善に努めていきます。

家庭での生活・学習習慣と学力には関連があり、家庭学習の習慣や規則正しい生活習慣を身に付けるとともに、学校や社会の出来事を話題にしたり、地域の活動に参加したりする機会を増やす等、引き続き家庭での支援と協力をお願いいたします。